

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	綾南町立昭和小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	20
児童数	52	52	56	55	45	53	2	315	

研究の概要

1 研究主題

主体的に自他にはたらきかけ，共に伸びようとする児童の育成
確かな学力を培い，一人ひとりに達成感をもたせる指導のあり方

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 第1～6学年・国語
児童の実態や学力を培うには，言語能力を鍛える必要があるため
- ・ 第1～6学年・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科であり，個性や個人差による指導が必要なため
（第2学年は，週2時間のみTTによる授業，第3・4学年は，TT・少人数授業を，第5・6学年は，少人数による習熟度別授業を実施する。）
- ・ 第3～6学年・理科
観察・実験が中心で，児童の興味・関心に応じた工夫をしやすい教科であるため
（第4～6学年は，主にTTによる授業を行い，単元によっては少人数授業を実施する。）

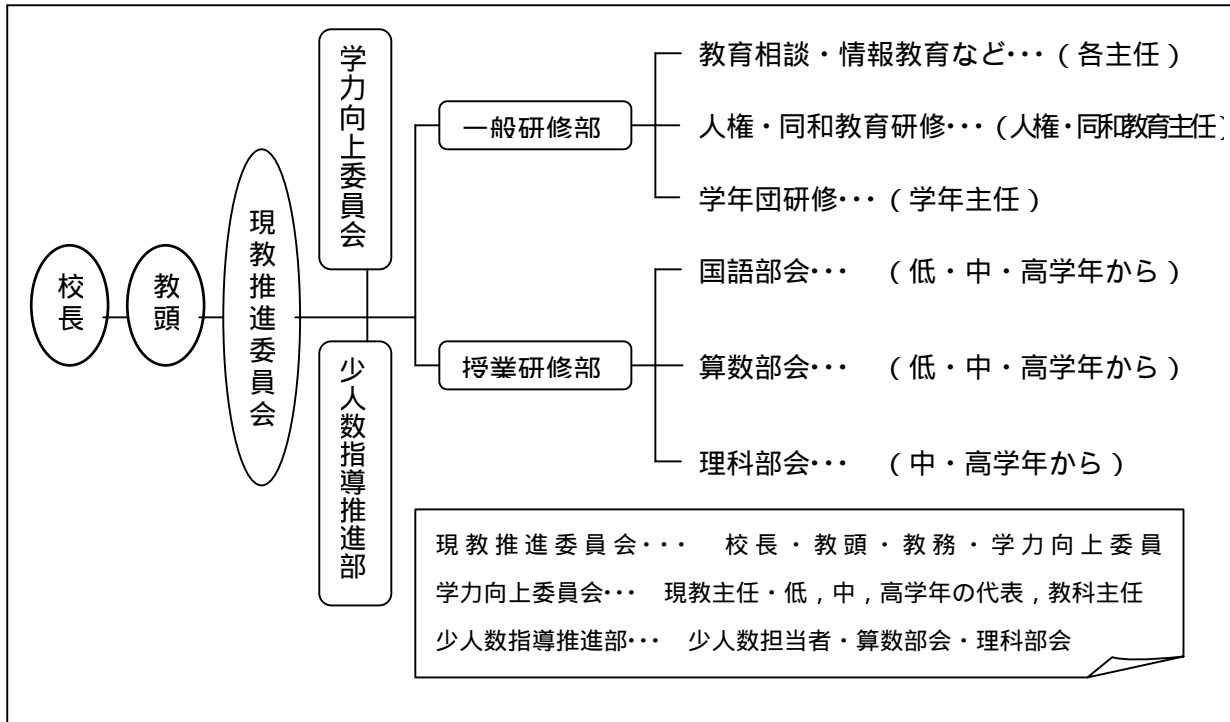
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ 確かな学力を培い，一人ひとりに達成感をもたせる指導のあり方 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説1 問題解決的な学習を重視し，個に応じた支援を工夫することにより，思考力・判断力を養うことができ，基礎的・基本的知識・技能を自ら獲得できるであろう。 ・ 仮説2 国語科における重点的な指導などにより，自己を表現する力を身につければ，学び合いを活性化させることができ，学ぶ力が育つであろう。 ・ 仮説3 読み・書き・計算の力をしっかり身につければ，様々な学習の場面で認識力が高まり，意欲的に学習に取り組むことができるであろう。 <p>研究の内容・方法 [内容]</p> <p>問題解決能力育成のための分かる楽しい授業改善（算数科，理科を中心に）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 個に応じた指導 * 問題解決的な学習の重視 ・ 少人数授業とTTの効果的な活用 ・ 単元の工夫 ・ 習熟度別指導に効果的な教材開発 ・ 学び合い ・ 評価・評価活動を生かした指導 <p>自己表現力育成のための工夫（国語科を中心に）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 話す・聞く領域や書く領域での重点指導（国語） * 話型の活用 * 調べ活動や表現物の作成 * 発表の場づくり <p>基礎学力[読み・書き・計算の力]育成のための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> * ドリル学習（漢字・計算） * 音読，暗唱 * 読書指導 * 家庭学習
--------------------	--

	<p>[方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数部会，理科部会，国語部会に分かれ，授業研究（少人数授業とTTの効果的な活用など）や教材研究（習熟度別指導に効果的な教材開発など），理論研究に取り組み，日常の授業実践に生かしていく。 評価の方法や子どもの自己評価の仕方などを工夫して，個に応じた効果的な指導方法を探る。 日常的な実践やドリル・チャレンジタイムの活用の仕方を工夫し，基礎学力の育成を図る。
--	---

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力を培い，一人ひとりに達成感をもたせる指導のあり方(検討中) 研究の見通し(仮説) (検討中)</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮説1 問題解決的な学習を重視し，個に応じた支援を工夫することにより，思考力・判断力を養うことができ，基礎的・基本的知識・技能を自ら獲得できるであろう。 仮説2 話す・聞く・書く活動を工夫して意図的に取り入れることにより，自己を表現する力を身につければ，学び合いを活性化させることができ，学ぶ力が育つであろう。 仮説3 読み・書き・計算の力をしっかり身につければ，様々な学習の場面で認識力が高まり，意欲的に学習に取り組むことができるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <p>[内容] (検討中)</p> <p><u>問題解決能力育成のための分かる楽しい授業改善</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 個に応じた指導 <ul style="list-style-type: none"> 少人数やTTのよさを生かした単元構成の工夫 習熟度別指導に効果的な教材開発 単元の終盤における効果的な習熟度別教材開発 評価活動を生かした指導 * 問題解決的な学習の重視 <ul style="list-style-type: none"> 見通しをもつ段階の工夫 発達段階や習熟度に応じた学び合いの工夫 <p><u>自己表現力育成のための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 話す・聞く・書く活動 * 調べ・表現活動 * 発表の場づくり <p><u>基礎学力[読み・書き・計算の力]育成のための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 達成感をもたせるドリル学習(漢字・計算) * 音読指導 * 読書指導 * 家庭学習(家庭との連携) <p>[方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語部会，算数部会，理科部会の3部会に分かれ，授業研究（少人数授業とTTの効果的な活用など）や教材研究（習熟度別指導に効果的な教材開発など），理論研究に取り組み，日常の授業実践に生かしていく。 評価の方法や子どもの自己評価の仕方などを工夫して，個に応じた効果的な指導方法を探る。 ドリル学習部会，家庭学習・音読部会の2部会に分かれ，達成感をもたせる工夫をして，日常的な実践やドリル・チャレンジタイムの活用の仕方等を工夫し，基礎学力の育成を図る。
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

問題解決能力の育成に向けての取組より

14年度の学習状況調査の算数・理科の観点別で全県を下回った観点が3あったが、15年度には1に減った。

	算 数				理 科			
	関・意・態	思考	表現処理	知識理解	関・意・態	思考	技能表現	知識理解
14年度全学年	+2.5	+3.3	+0.1	+2.0	-0.8	+0.1	-0.3	-1.9
15年度全学年	+1.3	+2.9	+1.3	±0.0	-0.7	+0.7	+1.5	±0.0

(数字は全県平均と比べたもの)

14・15年度の学習状況調査を比べると算数の正答率80%以上が現4～6年生で93人から113人に増えた。

理科で、学習状況調査の14年度1学期問題(14年10月実施)と同問題を15年11月に実施して比較すると、技能表現を除き、関・意・態(+0.5)、思考(+0.9)、知識理解(+0.3)と、わずかずつではあるが伸びてきている。

算数でも、学習状況調査の14年度1学期問題を15年11月に実施した。15年度4年生は下表のとおり、3年生では表現処理と知識理解が全県を下回っていたが、15年度11月実施分は表現処理が全県と同じで、後の3観点は、14年度4年の全県を上回った。5年生も思考(1.2%)、知識理解(0.9%)がわずかではあるが、全県を上回った。6年は知識理解が5年のときより7.6%伸びた。

算数(15年度4年)	関・意・態	思考判断	表現処理	知識理解
14年10月実施(3年で)	+13.9	+7.7	-2.4	-0.5
15年11月実施(4年で)	+2.4	+7.0	±0.0	+2.1

(数字は全県平均と比べたもの)

課題を的確に把握させるための工夫をしたり、児童の実態に合ったＴＴや少人数授業（習熟度別授業）を工夫したりすることで、下記のように、児童が興味・関心をもって課題に取り組めるようになった。

＜児童のアンケート調査結果から＞ 問 ＴＴや少人数授業をして算数や理科が好きになりましたか。

	算 数		理 科	
	7月調査(%)	11月調査(%)	7月調査(%)	1月調査(%)
とても好きになった	30.8	25.0	18.8	20.1
好きになった	35.2	33.1	28.9	37.7
変わらない	27.2	25.5	47.7	37.7

- 理科は今年度からＴＴ・少人数授業を導入し、昨年度より興味関心に応じた実験等ができる機会が増えたので、好きになった児童が大きく増えた。
- 算数も今年度初めて経験する２・３年は、他の学年と比べて好きになった割合が高い。
（２年 7月76.0％，11月76.5％ ３年 7月72.0％，11月71.4％）
- また、ＴＴや少人数授業をしている全学年で「やる気が出た」と答えた児童が、算数で37.7％，理科で32.2％と3分の1前後の児童が担任だけの授業よりやる気を感じている。
- 大勢の中では発表できない児童も、少人数授業の場合「質問が多くできる(35.3％)，たくさん指名してくれる(22.2％)，発表しやすくなる(42.4％)」などの理由を挙げている。
- 「ＴＴや少人数授業をずっと続けたいですか」という問いに対しては、「はい80.3％」，また、「少人数授業とＴＴのどちらが好きですか」に対しては「少人数授業が好き58.4％，ＴＴが17.5％」という結果となり、児童は少人数授業の方を好んでいる。
- 保護者のアンケート調査結果から、「お子さんは、ＴＴや少人数授業を受けるのが楽しくなったみたいですか」という質問に対して、1・2学期とも60％前後の方が、「楽しくなったようだ、少し楽しくなったようだ」と答えている

問題解決の過程を重視し、ワークシートやノートづくりとも関連させながら指導してきた結果、下記のように理科の学び方が身についてきている。また、理科における、ＴＴのよさや少人数授業のよさが明確になってきた。

- ＴＴや少人数授業の担当者は、一人で授業するときより、疑問や知りたいことをノートにたくさん書けるようになってきていると感じている。

＜理科の学び方についての児童のアンケート＞

理 科 (3 ~ 6 年)	はい(%)	いいえ(%)
疑問や問題を書けるようになったか	64.1	35.9
疑問に対する自分なりの予想を立てることができるようになったか	80.9	19.1
自分の予想を確かめるための実験や観察方法を考えることができるようになったか	59.8	40.2
目的を考えて実験や観察できるようになったか	76.1	23.9
実験の結果から分かったことを自分のことばでまとめられるようになったか	73.2	26.8
理科の授業の進め方が分かるようになったか	80.9	19.1

- 理科の授業では、自ら疑問をもち、それに対する自分なりの予想を立て、確かめの実験を行って、その結果から分かったことを自分のことばでまとめるという問題解決的な学習の過程が約60％～80％の児童が分かるようになってきたと答えている。

自己表現力の育成に向けての取組より

国語科で、学習状況調査の14年度1学期問題(14年10月実施)と同問題を15年11月に実施して比較すると、下表のように書く能力を除き、わずかではあるが伸びてきており、全県と比べても、話す・聞く能力を除き、4観点で上回った。(数字は全県平均と比べたもの)

国語(全学年)	関・意・態	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
14年10月実施全学年	-0.2	-7.6	+0.5	+0.8	-2.8
15年11月実施全学年	+2.0	-2.1	+0.2	+2.8	+0.6

国語科では、表現力の育成を重視した授業や話す活動の場の工夫等により、自分なりの言葉で考えを述べる児童が下表のように6割以上に増えてきた。また、より豊かな表現や深い理解につながる指導のポイントや学習方法を探ることができた。

聞 く こ と (全学年)	はい	いいえ
相手の話をよく聞けるようになったか(だまって、相手の方を向いて)	62.5	37.5
自分の考えと比べながら相手の話が聞けるようになったか	60.3	39.7
目的をもって話が聞けるようになったか	41.2	58.8
話 す こ と (全学年)	はい	いいえ
自分の考えをみんなの前で話せるようになったか	66.0	34.0
声の大きさや速さに気をつけて話せるようになったか	61.5	38.5
目的や場に合った言葉遣いで話せるようになったか	61.2	38.8

基礎学力の育成に向けての取組より

継続的な取組により，自分の伸びが客観的に判断できる計算力は，下記のようについてきている。なかでも，百マス計算の練習には，自分なりのめあてをもたせることで，意欲的に取り組み，数値の上でも伸びてきたのが実感できた。

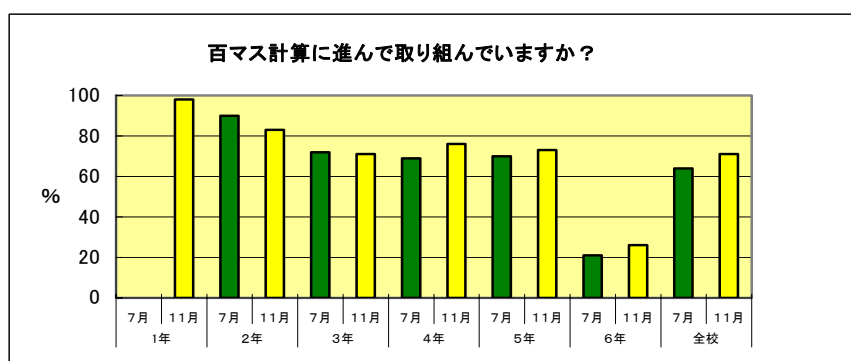
- 算数月末テスト（計算領域）では，下表のように80点以上の児童が80%以上いる。指導が必要な児童には個別指導をした後，再テストを実施し，ほとんどの児童が正答率90～100%となる。

	2年 たし算ひき算	3年 かけ算の筆算	4年 わり算の筆算	5年 小数の かけ算わり算	6年 分数の たし算ひき算
80点～100点	82.7	92.9	86.0	81.8	81.1

- 百マス計算練習による計算スピード伸びの例（2年生と3年生の一学級）を見ても分かるように，毎日，3～5分練習を繰り返すことで，計算力は伸びてきている。

（たし算100問） 2年	5月15日	11月26日
3分以内達成者の割合	3.8	88.5
全問正解者の割合	0.0	50.0
（あまりのあるわり算④50問） 3年	12月25日	1月14日
5分以内達成者の割合	10.7	60.7
全問正解者の割合	3.6	35.7

- 学校全体として意欲的に取り組む人数が増えてきている。また，低学年ほど，意欲的である。



2 今後の課題

問題解決能力の育成に向けての取組より

TTや少人数授業のよさを生かした単元構成を工夫したり，児童の実態に合った課題・習熟度別授業の教材開発を進めたりしていきたい。

確かな考えがもてるように，見通しを持つ段階を重視したり，表現技能を身につけたさせたりしたい。

深まりのある学び合いになるように，発達段階や習熟度に応じた学び合いの工夫をしていきたい。

自己表現力の育成に向けての取組より

発達段階に応じた書く力を明確にし，書く力の伸長を図りたい。

書く力，聞く力，話す力をめざして，日記指導とその活用の充実を図りたい。

基礎学力の育成に向けての取組より

学習意欲の高揚を図るための方法を工夫したい。

学力等把握のための学校としての取組

(1) テストをもとにした学力の把握

- ・ 香川県作成の学習状況調査（H.14.10.と H.15.4.実施）と同一問題を学期ごとに実施し、その結果を比較考察して、指導法の改善や研究の成果を検証して、研究実践に生かしていく。
- ・ 単元末テストや県版テスト、月末テスト等を定期的実施し、その結果をもとに個々の児童の学習内容の理解度を把握し、指導や授業改善に生かしていく。

(2) アンケート調査による把握

- ・ TT と少人数授業に関わる意識調査（児童及び保護者、教員対象）を学期末ごとに実施し、指導法の改善や研究の成果を検証して、研究実践に生かしていく。
- ・ 問題解決能力や自己表現力に関わる意識調査（児童及び教員対象）2月に実施し、指導法の改善や研究の成果を検証して、研究実践に生かしていく。
- ・ 基礎学力に関わる意識調査（児童及び保護者対象）を学期末ごとに実施し、指導法の改善や研究の成果を検証して、研究実践に生かしていく。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 算数科（少人数中心、TT・・・2・3年生）や理科（TT 中心、少人数・・・4年生以上）の授業を保護者へ公開したり、それに関わる意識調査の結果等を学校だよりや学年だよりに載せたりして、地域の人に研究の成果を普及する。
- ・ 研究の取組について、中間まとめをホームページに掲載して普及に努める。
- ・ 町一貫性教育研究会での発表や学力向上フロンティア地区協議会実践発表会のポスターセッションを通して、研究に成果を他校に普及していく。
- ・ 平成17年1～2月に発表会が開催できるか検討していく。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	